



## 第4回奈良県・市町村長サミット

---

# 「奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン」（素案）について

---

平成29年12月25日

奈良県観光局

# 「奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン」(素案)について

## 策定の趣旨

- 20年後の2037年には、リニア中央新幹線の「奈良市附近」駅設置が確実になっている。
- 10年後の2027年には、リニア中央新幹線の名古屋・大阪間の工事が開始され、遅くともその4年前の2023年、今から6年後には「奈良市附近」駅の位置とルート確定のための環境影響評価が開始される。
- インバウンド需要は止まることを知らず増幅を続けており、日本の各観光地による争奪戦の様相を呈している。
- 以上の状況に鑑み、奈良県においては、県と有志市町村が共同で「奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン」の策定に取り組み、県と有志市町村が連携・協働して同ビジョンの実現推進を図る必要がある。

## 素案のイメージ

### 1. 観光地としての奈良の魅力づくり=「6つのA」

#### 滞在型観光の実現

#### 「泊まる奈良」

- **アコモデーション (Accommodation)**  
宿泊施設の質と量の充実
- **アメニティ (Amenity)**  
滞在環境の快適性の向上
- **アピタイト (Appetite)**  
食の魅力向上

#### 移動・周遊環境の充実

#### 「巡る奈良」

- **アクセス (Access)**  
効率的な交通・道路体系の形成

#### 豊かな観光資源の活用

#### 「活かす奈良」

- **アトラクション (Attraction)**  
歴史文化資源の保存・活用
- **アミューズメント (Amusement)**  
楽しい奈良の実現

### 2. 対外プロモーションの強化

外国人観光客等

### 3. 国際交流等の推進

海外

### 4. 観光振興の土台づくり

- 観光に関するデータの整備・活用
- 観光を支える人材の育成・確保
- 財源の確保
- 県・市町村の連携・協働

分類

項目

1. 観光地としての奈良の魅力づくり	(1) 滞在型観光の充実 「泊まる奈良」	①宿泊施設の質と量の充実 (Accommodation)
	(2) 移動・周辺遊景境の充実 「巡る奈良」	②食の魅力向上 (Appetite)
	(3) 豊かな観光資源の活用 「活かす奈良」	③滞在環境の快適性の向上 (Amenity)

2. 対外プロモーションの強化	④歴史・文化資源の「保存・活用」 (Attraction)	④食の魅力向上 (Appetite)
	⑤楽しい奈良の実現 (Amusement)	効率的な交通・道路体系の形成 (Access)
		知率的な交通・道路体系の形成 (Access)

3. 国際交流等の推進		

4. 観光振興の土台づくり		

ハト	● 上質な宿泊施設の整備
	● 多様なニーズに対応する宿泊施設の整備
シト	● 観光案内拠点の充実
	● 多言語による案内表示の充実
	● 通訳環境の整備促進
	● トイレの洋式化
	● 良好な景観の整備
シト	● キャッシュレス環境の改善
	● 多様な宗教的・文化的習慣の受入環境整備
	● 通訳ガイドの質・量の充実
	● 外国人観光客の安全・安心の確保
	● 奈良の食文化のブランド化とその展開
	● 外国人観光客が円滑に移動できる環境整備
	● 域内2次アークセスの強化
シト	● 観光振興に資する道路整備
	● 歴史文化資源の整備・活用
	● 歴史文化資源の保存・修復
	● 「世界に誇れる公園」としての奈良公園のブランド化
	● 四季を通じた文化・スポーツイベントの展開
	● 滞在型観光の推進
	● 体験メニューの充実
	● 土産物等買物物の魅力向上
	● 外国人目線に立った情報発信
	● 奥深い奈良の魅力を生かした特色ある商品造成
● 政府等の関係機関との積極的連携	
ハト	● 富裕層をターゲットにしたプロモーションの推進
	● 国際相互交流の推進
	● 文化財保護分野に関する国際協力の推進
	● MICEの語彙競争力の強化
	● 訪日教育旅行の推進
	● 観光に関するデータの収集・分析や調査の推進
	● DMO/法人の形成による推進体制づくり
	● 観光事業者の人材育成・人材確保
	● 観光教育の充実
	● 財源確保の取組
● 県と市町村の連携・協働	

# 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン（素案）①

分類	項目	当面の具体化の検討例
<p>1. 観光地としての奈良の魅力づくり                      (1) 滞在型観光の充実                      「泊まる奈良」                      ① 宿泊施設の質と量の充実                      【Accommodation】</p>	<p>● <b>上質な宿泊施設の整備</b>                      世界水準の滞在型観光地を目指し、宿泊施設の誘致に向けた取組を強化するとともに、意欲ある宿泊施設のインバウンド対応を支援することにより、上質な宿泊施設を整備する。</p> <p>● <b>多様なニーズに応える宿泊施設の整備</b>                      古民家を含む文化財建造物等の宿泊施設への活用、政策関連連携による複合施設における宿泊施設併設などに取り組み、大型国際会議を開催できるホテルから、技術者が長期滞在できる低廉なセミナーハウス、更には民泊サービスまで、外国人観光客の多様なニーズに応える宿泊施設の整備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JWマリオットホテル」及び奈良公園（古城園周辺地区、高畑町周辺地区）の宿泊施設の着実な整備を進める。</li> <li>・地域のブランディングや魅力向上に繋がる国際的なブランド力のある上質な宿泊施設の誘致を進める。</li> <li>・南部東部地域の自然と文化資源を拠りどころ（背景）に立地する宿泊施設や、古都奈良のまちの文化・歴史と調和した宿泊施設等、豊かな地域資源を活かした上質な宿泊施設の整備を進める。</li> <li>・宿泊施設を中心とした地域のにぎわいづくりや町並みの魅力の創出に取り組む。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県の強みである歴史文化資源を活用し、総合的・戦略的に施策展開を図る拠点である（仮称）奈良県国際芸術家村に宿泊施設を誘致する。</li> <li>・国の重要文化財である旧奈良監獄を活用した宿泊施設の整備を推進する。</li> <li>・外国人観光客に好評を得ている古民家（町家、農家など）を活用したゲストハウスの整備や創業者を目指す人材や民間事業者を支援する。</li> <li>・宿坊型宿泊施設等「奈良らしい文化体験」のできる宿泊施設を整備する。</li> <li>・NAFIC（「なら食と農の魅力創造国際大学校」）の特徴を活かした「食」と「農」の交流・研修施設として整備するセミナーハウスに宿泊機能を備える。</li> <li>・急増する外国人観光客のニーズを踏まえ、周辺の生活環境への悪影響を防止しつつ、住宅宿泊事業法に則った健全な民泊サービスの活用を進める。</li> </ul>
<p>1. 観光地としての奈良の魅力づくり                      (1) 滞在型観光の充実                      「泊まる奈良」                      ② 滞在環境の快適性の向上（ハード）                      【Amenity】</p>	<p>● <b>観光案内拠点の充実</b>                      観光案内・情報交流・宿泊機能等を備えた拠点施設「奈良県外国人観光客交流館（奈良県猿沢イン）」の取組などにより、外国人観光客向けの情報発信の強化や案内機能の質の向上を図る。</p> <p>● <b>多言語による案内表示の充実</b>                      外国人目線に立った多言語対応を強化・改善するため、観光庁「多言語対応ガイドライン」を参考にしつつ、多言語による案内表示等の整備を推進する。</p> <p>● <b>通信環境の整備促進</b>                      外国人観光客がインターネットによる情報入手面において不自由を感じることがないよう、Wi-Fiなどの通信環境の整備を推進する。</p> <p>● <b>トイレの洋式化</b>                      自然体験を求める観光客が増加する状況を踏まえ、主要駅、観光地、遊歩道等に設置された公衆トイレの洋式化を進める。</p> <p>● <b>良好な景観の整備</b>                      観光地としての魅力を向上すべく、奈良ならではの“美しい自然・景観”を「守り」、より魅力的に「育て」、まちづくりを通じて「活用」する取組を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県猿沢インの取組の普及を進める。</li> <li>・日本政府観光局（JNTO）カテゴリ1以上の観光案内所を整備する。</li> <li>・主要な観光スポットにある観光案内所等について、全て多言語対応とする。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な観光地、駅前、宿泊施設の集積地における周辺地区の案内板整備を支援するしくみを構築する。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備を進めてきた奈良公園周辺、今井町、吉野山、宇陀松山地区、明日香村中心部に続けて、観光地における無料Wi-Fiの面的整備を進める。</li> <li>・宿泊施設や、市町村又は市町村観光協会が運営する観光案内所で無料Wi-Fiの整備を進める。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客の大幅な集客増が見込める主要観光地・宿泊施設について重点的にトイレの洋式化を進める。</li> <li>・主要駅周辺及び観光案内所、観光駐車場についても優先的に大幅な洋式化を進める。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周遊ルート上の沿道において積極的な植栽を進める。</li> <li>・広告物規制など沿道やまちなかの景観改善を進める。</li> </ul>

## 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン（素案）②

分類	項目	当面の具体化の検討例
<b>1. 観光地としての奈良の魅力づくり</b> (1) 滞在型観光の充実「泊まる奈良」 ②滞在環境の快適性の向上（ソフト） 【Amenity】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>キャッシュレス環境の改善</b>                              外国人観光客の利便性向上のため、海外発行カード対応ATMの設置及びクレジットカード決済・IC対応端末の普及を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内宿泊施設、飲食店等を対象にした研修において、クレジットカード対応の必要性を周知啓発し、外国人誘客の増加を目指す重点地域の商業・宿泊施設、博物館、美術館での「クレジットカード決済対応」及び「決済端末のIC化対応」普及率の大幅な向上を実現する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>多様な宗教的・文化的習慣の受入環境整備</b>                              多様な宗教的、文化的習慣を有する外国人観光客のため、食事や礼拝などの生活習慣に配慮した受入環境を整備するとともに、対応済みの飲食店や宿泊施設等の事例共有を含む情報提供に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ムスリム旅行者に配慮したハラール対応サービスの普及促進（講習会や試作等）と提供環境（調理器具やメニューの準備等）整備を実施する。</li> <li>・ 県内のハラール（フレンドリーを含む）を提供可能な施設を調査し、県ホームページ等で情報発信を行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>通訳ガイドの質・量の充実</b>                              奥深い奈良県の魅力を伝えられる知識、外国人観光客の多様なニーズに応える能力とホスピタリティを兼ね備えた質の高い通訳ガイドを育成し、その量的充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に精通し、旅行者の幅広いニーズに対応できる地域通訳案内士（英語・フランス語）を育成する。これまで認定した県公認ガイドの地域通訳案内士への移行を促進する。そして、質の高い通訳ガイドの活躍機会の積極的拡大を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>外国人観光客の安全・安心の確保</b>                              「安全・安心の確保のための奈良県基本計画」に沿って災害等に備えた関係機関の連携等に取り組むとともに、外国人観光客の急患・急訴・相談等に迅速・的確に対応するための体制・環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光向け多言語コールセンターに医療通訳サービスを追加して運用するほか、通訳者派遣サービスなどの検討を進める。</li> <li>・ 県内医療施設の「外国人旅行者受入医療機関リスト」への登録を推進するなど受入可能施設の拡充を図る。</li> </ul>
<b>1. 観光地としての奈良の魅力づくり</b> (1) 滞在型観光の充実「泊まる奈良」 ③食の魅力向上 【Appetite】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>奈良の食文化のブランド化とその展開</b>                              奈良の優れた食材の一層の品質向上に努め、ブランド化による奈良の美味しい「食」の創造と発信に取り組むとともに、飲食施設の質と量の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NAFICで育成された人材など意欲ある起業家による良質なレストランの開業を促進する。</li> <li>・ 奈良の食材のブランド確立と県内宿泊施設やレストランでの活用を促進する。</li> <li>・ 県内外の食品事業者、農業生産法人、まちづくり事業者などの新規参入による特色あるレストランの開業を促進する。</li> </ul>

## 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン（素案）③

分類	項目	当面の具体化の検討例
<p>1. 観光地としての奈良の魅力づくり                      (2) 移動・周遊環境の充実「巡る奈良」                      ○効率的な交通・道路体系の形成                      【Access】</p>	<p>● 外国人観光客が円滑に移動できる環境整備                      外国人観光客の良質な移動環境を実現するため、地域公共交通の改善を図るとともに、鉄道駅、バスターミナル等の交通結節点の機能高度化、その他交通サービスの整備とインバウンド対応を推進する。</p>	<p>【外国人観光客に対応したタクシーサービスの実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客の受入環境整備に関してユニバーサルデザインタクシーの導入を支援することにより質の高いサービスを提供する。</li> <li>併せて、地域の歴史文化資源や特産品等を活かした新たな観光タクシーサービスを提供する。</li> <li>・富裕層をターゲットとしたサービスや、割安な観光タクシーサービスなど、外国人観光客のニーズに対応したサービスを実現する。</li> </ul> <p>【外国人観光客向け交通バスの導入による周遊型観光の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客向け交通バスを導入するなどの取組により、県内全域での宿泊需要を喚起するとともに、周遊を拡大する。</li> </ul> <p>【バスロケーションシステムの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト、ハード一体で多言語型バスロケーションシステムを整備するとともに、奈良交通路線バス全線においてバスの位置情報をスマートフォンで提供するサービスや、バスターミナルや主要バス停を中心とした情報表示装置の設置やWi-Fi環境の整備を進める。</li> </ul>
	<p>● 域内2次アクセスの強化                      リニア中央新幹線の間接駅が奈良市付近に設置されることを視野に入れ、県内へのインバウンドアクセス性の抜本的向上を図るとともに、域内2次アクセスの交通を強化充実し、外国人観光客の県内分散と滞在長期化を図る。</p>	<p>【観光振興に資する公共交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のバスルートの活用等により、世界遺産等の観光拠点を結ぶ周遊観光ルートを形成する。</li> </ul> <p>【県と市町村の連携・協働によるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地への玄関口となる鉄道駅やバスターミナルの整備を推進する。</li> <li>・公共交通を補完する交通手段・施設の充実を図る（シェアサイクル等）。</li> </ul>
	<p>● 観光振興に資する道路整備                      観光の広域的な人の流れの活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京奈和自動車道大和北道路（木津IC～郡山下JCT）のネクスコ西日本との合併施行方式（直轄＋有料）による新規事業化を要望し、着実な整備を促進する。</li> <li>・第二阪奈有料道路のネクスコ西日本への移管を図るとともに、第二阪奈有料道路と京奈和自動車道の高規格道路での接続を要望する。</li> <li>・域内観光名所を円滑に周遊できる道路の整備を推進する。</li> <li>・駐車場の適正な配置、容量の確保、魅力的な道路空間の創出を推進する。</li> <li>・京奈和自転車道（広域周遊自転車ルート）の整備を推進する。</li> </ul>

## 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン（素案）④

分類	項目	当面の具体化の検討例
<b>1. 観光地としての奈良の魅力づくり</b> <b>(3) 観光資源の創造・活用「活かす奈良」</b> <b>①歴史・文化資源の保存・活用【Attraction】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>歴史文化資源の整備・活用</b>  「奈良県文化振興大綱」に沿って、歴史文化資源の整備・活用を促進し、わかりやすい解説と多言語対応を含め、積極的な情報発信を行うとともに、海外からの誘客促進に効果的につながる観点から、歴史文化資源の国際交流に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【「ゆかり」をテーマにしたイベント】</li> <li>・2020年に集大成の年を迎える「記紀・万葉プロジェクト」に続き、奈良の様々な歴史上の「ゆかり」をテーマに設定したイベントを継続的に実施することで、奥深い魅力を持つ奈良のブランド力の一層の向上を図る。</li> <li>【「ジャポニスム2018」等を契機とした誘客促進】</li> <li>・「ジャポニスム2018」や英国における仏像展示等、大規模な国際行事を契機に、相互の文化交流を通じて一層訪問意欲を高め、継続的な集客増に繋げていく。</li> <li>【地域の観光資源の開発】</li> <li>・観光素材としての可能性を持つ地域の歴史・文化資源を洗い出し、それらを組み合わせるストーリー化するなど磨き上げ、観光資源としての魅力の向上を図る。</li> <li>【魅力を伝える力の向上】</li> <li>・地域の観光を支える人材（地域住民、観光事業者、県・市町村職員）の歴史文化資源の魅力を伝える力を高める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>歴史文化資源の保存・修復</b>  世界遺産の社寺や国宝・重要文化財建造物等の観光資源としての価値を維持するため、長期的な計画の下、適切な修理周期を実現するとともに、修理現場の公開（修理観光）や修理の機会を捉えた解説や宮大工の活用等による情報発信を推進する。また、発掘調査等による新たな観光素材の掘り起こしを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【（仮称）「奈良県国際芸術家村」の活用】</li> <li>・（仮称）「奈良県国際芸術家村」を「建造物」「埋蔵文化財」「仏像・絵画等の美術工芸」分野にまつわる技術の真髄を保存・活用・体感できる拠点とするとともに、ユネスコアジア文化センターと連携し、国際的な人材養成の拠点化を目指す。このことにより、県内の歴史文化資源のブランド力の一層の向上を図る。</li> <li>【史跡・宮跡の観光資源としてのブランド確立】</li> <li>・平城宮跡、藤原宮跡、飛鳥、纏向遺跡等の持続的な発掘調査や整備の促進により、観光資源としての魅力の向上を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>「世界に誇れる公園」としての奈良公園のブランド化</b>  守るべき自然を保護しつつ、訪れた外国人観光客がより快適に過ごせるような利用環境の整備や情報提供などを行い、「世界に誇れる公園」としての奈良公園のブランド化を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県・奈良市及び民間観光事業者が一体となり、モデル的な観光地としての一層の魅力向上を図る。  （吉城園周辺地区、高畑町周辺地区における宿泊施設整備及び周辺景観の整備、受入環境の整備、大宮通りを中心とした交通環境整備）</li> </ul>
<b>1. 観光地としての奈良の魅力づくり</b> <b>(3) 観光資源の創造・活用「活かす奈良」</b> <b>②楽しい奈良の実現【Amusement】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>四季を通じた文化・スポーツイベントの展開</b>  奈良の強みである歴史、文化を訴求するイベントをはじめ、どの季節に来ても楽しめる県内各地の文化・スポーツイベントの展開により、誘客の拡大を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【特色ある文化イベントの充実】</li> <li>・「ムジークフェストなら」や「国文祭・障文祭2017」の後継事業を一層充実させ、社寺・宮跡などの独特な雰囲気の場所でのイベントを始め、国際的な発信力のある祭りに発展させる。</li> <li>【スポーツイベントの創出】</li> <li>・ウォーキングやトレッキング、トレイルラン、サイクリング、カヌーなど、自然、地勢、景観、歴史等、奈良県の特徴を活かした奈良らしいスポーツイベントを開催することで、県内外からの参加者を通じて、奈良の魅力発信と地域のにぎわいづくりを図る。</li> <li>【スポーツイベントを活かした滞在型観光の促進】</li> <li>・「奈良マラソン」をはじめ、アウトドアスポーツイベントなどの魅力あるスポーツイベントを活用した宿泊を伴う新たな滞在型観光メニューの企画を検討し、スポーツツーリズムを推進する。</li> <li>【トレッキング観光等の推進】</li> <li>・奈良の自然や歴史文化資源を活用したウォーキングコース、トレッキングコース、サイクリングコース等の整備・活用を通じ、地域をゆっくり巡って楽しむ観光の推進を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>滞在型農山村の推進</b>  奥深い奈良の魅力を経験できるプログラムや民家ステイなどを通じて、奈良の農山村のもつポテンシャルを活かした滞在型農山村の取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【滞在型としての魅力づくり】</li> <li>・奥大和地域の農山村の豊かな自然や、歴史文化自然などの魅力ある素材を活かし、様々な分野で観光資源として整備する。  （農家民宿、地域の食材を活かしたレストラン、ウォーキングコース、トレッキングコース、木材工芸体験、木のしつらえ空間づくり、森林セラピー）</li> <li>【「ぐるっとオーベルジュ」の整備】</li> <li>・地域の特色ある「食」と「農」を活かしたオーベルジュを整備し、ネットワーク化することで県南部東部地域における滞在型・周遊型観光を推進する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>体験メニューの充実</b>  「モノ消費」から「コト消費」に移行している訪日外国人の旅行需要を踏まえ、体験型観光の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術文化、工芸、衣装、食・社寺行事、地元との交流など、地域ならではの体験や、奈良の自然を活かした野外アクティビティなど外国人旅行者にとって魅力ある体験メニューを創出する。</li> <li>・体験メニューの満足度の向上を図るため、外国人観光客のニーズ把握に努めながら有効なしくみを加えていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>土産物等買物の魅力向上</b>  地域の特色を活かした魅力ある商品の開発や、賑わいの創出など買物環境の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【魅力的な土産物とお店の開発】</li> <li>・地域の素材、資源を活かして、お手頃なものからお値打ち品まで魅力的な土産物の品揃えを飛躍的に充実させる。  （例：麻を用いた雑貨、果実の加工食品、吉野葛菓子、吉野杉や檜の工芸品、和紙製品 等）</li> <li>・周辺の歴史的な資源と調和して、まちの修景に寄与するような意匠を備えたお店の整備を促す。</li> </ul>

## 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン（素案）⑤

分類	項目	当面の具体化の検討例
2. 対外プロモーションの強化	● 外国人目線にたった情報発信 インターネットを活用して、外国人観光客がいつでも・どこでも入手しやすい形で奥深い奈良の魅力を発信する。	<p><b>【発地に向けた情報発信】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県海外向け観光情報サイトをはじめ、欧米豪の観光客の関心の高い観光素材の画像、映像、解説を継続的に更新・追加して、海外にいる人に伝わりやすく個人向け情報発信を強化して、SNS（個人情報発信サイト）などによる情報の拡散を促す。</li> <li>・テレビ、新聞雑誌、旅行ガイドブック等、各市場で有力なメディアへの情報提供の質と量を充実させて、露出の向上と、発地での奈良の認知度アップをめざす。</li> </ul> <p><b>【デジタルを活用したマーケティングの本格活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良の魅力を伝える動画を作成、欧米豪の個人スマートフォン向け動画共有サイトで広告を配信し、県観光情報サイトへ誘導して、国別（仏・英・独・米・豪）、年代別、性別による好みを分析するなど、新メディアを活用した効果的なプロモーションのための情報を蓄積する。</li> </ul> <p><b>【主要ターゲット（英語圏、中国語圏など）にランドオペレーターを配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地メディアや旅行会社との関係づくりを着実に進めるとともに、視察の受入等を実施するなど、個人向け情報発信を強化する。</li> </ul>
	● 奥深い奈良の魅力を活かした特色ある商品造成 「世界が訪れてみたいくなる奈良」を実現するため、社寺等と連携し、奥深い奈良の魅力を体感できる特色ある旅行商品造成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験商品のみではなく、宿泊・周遊型の特別な旅（オーダーメイド）を奈良県ビジターズビューローで造成し、インバウンド個人旅行者向けウェブサイトで販売する方式を定着・発展させる。</li> <li>・県ビジターズビューローでは、民間や市町村の独自企画の販売も支援する。</li> </ul>
	● 政府等の関係機関との積極的連携 奈良に拠点を置く世界観光機関（UNWTO）と協働するとともに、豊富な観光資源を誇る日本有数の観光地として、観光庁、日本政府観光局、在外公館などによるオールジャパンでの訪日プロモーション等との連携を積極的に行う。	<p><b>【「ジャポニスム2018」の機会を活用した関係機関との積極的連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジャポニスム2018」での奈良の文化紹介の催しの機会を活かして、フランスの文化芸術の作家、研究者、メディアや政府関係者との接点づくりを積極的に進め、有力メディア掲載を通じた訪日無関心層への奈良の紹介をはじめ継続的な奈良県情報の発信につなげる。</li> <li>・フランスでのレップ活動に、「ジャポニスム2018」における奈良県の催しを紹介・活用し、文化芸術関係者や旅行会社のファムトリップ受入などによる誘客を推進する。</li> </ul>
	● 富裕層をターゲットにしたプロモーションの推進 欧米豪を中心とする海外富裕層をターゲットにして、奈良のブランドイメージを確立するため、奈良ならではの特別な体験を含む商品造成と受入体制の整備を行う。	<p><b>【「奈良＝上質」のブランディング推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かつて世界各国との交流を通じて、日本固有の文化として形成された奈良の歴史文化資源にまつわる特別体験や、日本文化発祥の地・奈良ならではのコンテンツ（相撲、刀など）の更なるブラッシュアップを行う。</li> </ul>

## 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン（素案）⑥

分類	項目	当面の具体化の検討例
3. 国際交流等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>国際相互交流の推進</b> かつてシルクロードの終着点として比類のない国際性を発揮し、古来の文化と渡来の文化が交流・融合を果たした場所である奈良ならではの国際相互交流の取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア地方政府会合の開催や友好提携地方政府等の友好交流事業を通じて海外との相互交流を積極的に推進する。</li> <li>・県立大学をはじめ、県内大学と海外の大学との学術交流、文化交流を積極的に進める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>文化財保護分野に関する国際協力の推進</b> 奈良に拠点を置くユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所との連携や橿原考古学研究所等を通じた文化財保護分野に関する国際協力の取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所が受託する人材養成研修などへの協力を実施する。</li> <li>・橿原考古学研究所等を通じて豊富な歴史文化資源を有する奈良ならではの文化財保護分野での国際協力・国際交流の一層の推進を図る。</li> <li>・元興寺文化財研究所による海外の文化遺産保護支援活動との連携を進める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>MICEの誘致競争力の強化</b> 開催実績のあるMICEのリポートに向け、きめ細かな誘致活動を実施するとともに、コンベンション誘致の専門家のアドバイスを受けながら、大規模のコンベンションを受け入れるための環境整備を進めることを含め、MICEの誘致活動を強化する。また、奥深い奈良の魅力を活かした、奈良らしいユニークなMICEの創出・発信に取り組む。</li> </ul>	<p><b>【MICE誘致力の更なる強化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE関連情報を蓄積している国際団体への参加による情報収集を行い、奈良開催の可能性の高い会議をピックアップした効果的な誘致を推進する。</li> <li>・APTEC（（一財）アジア太平洋観光交流センター）を活用したUNWTO（国連世界観光機関）との積極連携と関連会議の誘致を推進する。</li> <li>・国内外に影響のあるアドバイザーの発掘と定期的な情報収集を実施する。</li> <li>・MICE誘致と手配を行う事業者やMICEに決定権を持つキーパーソンを招請したファムトリップを実施して、継続アプローチを実施する。</li> <li>・MICE商談会等に出席、開催情報の収集を行う。</li> </ul> <p><b>【奈良県コンベンションセンターの完成に伴う大規模MICEの新規開拓】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大臣級会合など、政府系大規模国際会議開催情報の収集と関係機関及び主催者への継続したセールスを実施する。</li> </ul> <p><b>【スポーツMICEの誘致】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致を契機としたスポーツイベント、スポーツ関連展示会などの誘致を推進する。</li> </ul> <p><b>【MICE開催地「奈良」のブランド力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県ビジターズビューローと協力し、奈良を代表する社寺との積極連携によるユニークベニユーの強化を図る。</li> <li>・特別感のあるパーティー＋社寺特別体験など、MICEに特化した新商品開発を推進する。</li> <li>・主催者のニーズをもとにした支援制度等の更なる充実を図る。 交通事業者と連携した会場とホテル間の移動に便利な二次交通サービスの検討など</li> </ul> <p><b>【MICE受入れ環境の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模MICE開催にあたって官・民あがての受入体制の構築、情報共有を実施する。 県、奈良県ビジターズビューロー、市町村、商工会議所、PCO（総合運営サービス事業者）、宿泊施設、ユニークベニユー（社寺等）等</li> <li>・MICE施設の利用の際の規制緩和、施設間連携、予約に関する柔軟な対応を図る。</li> <li>・奈良滞在中の観光、食、宿泊、買い物などの満足度を高める情報提供を実施する。</li> <li>・地元のMICE関連企業、通訳など専門人材の育成を実施する。</li> <li>・MICE開催に合わせた関連事業や周辺イベントを実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>訪日教育旅行の推進</b> 訪日教育旅行参加者を奈良来訪のリピーターにつなげるとともに、訪日教育旅行の教育意義について関係者の理解を促進し、県内の学校との交流の機会の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥深い奈良の魅力に触れる体験プログラムの充実等を進める。</li> <li>・アジア圏の中学校、高校の奈良訪問による県内学校との交流行事を引き続き充実させる。</li> <li>・明日香村を中心とした、海外の生徒のホームステイ受け入れによる交流事業を積極的に拡大していく。</li> <li>・県内私立高校などと海外学校との相互交流の取組を進める。</li> </ul>	

## 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン（素案）⑦

分類	項目	当面の具体化の検討例
4. 観光振興の土台づくり	● <b>観光に関するデータの収集・分析や調査の推進</b> 国や地域の旅行市場・旅行形態や県内のエリア・観光資源に応じて戦略的な海外宣伝誘致を含めたきめ細やかな対応を図ることができるようにするとともに、外国人観光客の満足度向上を実現するため、国や他の都道府県の動向を踏まえつつ、新たな調査の実施を含めたデータを質的・量的に抜本的に充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>モバイル空間統計などの活用による新たな市町村別・国籍別・月別・時間帯別のデータ蓄積や、外国人観光客の奈良県訪問動機、ニーズ等の把握を継続的に行うことで、市町村別・エリア別の目標設定や戦略の策定を行う。</li> </ul>
	● <b>DMO法人の形成による推進体制づくり</b> 魅力ある観光地域づくりの核として、地域連携DMOである一般財団法人奈良県ビジターズビューローを各種データの収集・分析に基づく高度な戦略性を備えたDMOに育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進的な観光地経営を行うDMOとも連携し、奈良県ビジターズビューローを魅力的な観光地域づくりや高度な戦略に基づく情報発信・プロモーションを行うDMOとして育成する。</li> </ul>
	● <b>観光事業者の人材育成・人材確保</b> 観光事業者が名実ともにリーディング産業となるよう、観光事業者の多言語対応力やホスピタリティ、マネジメント力など知識や能力の向上に取り組むとともに、良質な人材を確保すべく、生産性向上・労働環境改善などの働き方改革に取り組む。また、県内教育機関における実学教育においてインバウンド対応の人材育成を重視する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光産業で「稼げる」奈良をつくることをめざし、産官学が一体となって地域の観光産業を支える人材を育成する。 (求められる観光人材：奈良県の観光産業を牽引し、新規事業開発を行う経営者や起業家、宿泊産業や飲食事業者などの経営実務を担う中核人材、おもてなし・サービスの現場を支える人材（観光産業の従事者）、地域DMOなど観光地経営のできる人材等)</li> <li>奈良に拠点を置く国際的な観光機関とも連携し、MICEの受入等の専門的な人材を確保・育成する。</li> <li>県内大学においては、観光人材の養成拠点として、地域の観光産業の担い手となる専門人材を養成する。</li> </ul>
	● <b>観光教育の充実</b> こどもたちを含む県民が、郷土への誇りや愛着を基礎として、本県の強みである歴史、文化などを理解し、関心を持ち、その魅力を実感・発信できるようにするとともに、インバウンド観光がもたらす経済的効果や外国人観光客が有する異なる価値観や歴史・文化・宗教などへの理解が深まるよう、語学を含めた教育面での対応を強化する。	
	● <b>財源確保の取組</b> インバウンド対応以外の観光予算とのバランスも踏まえつつ、所要のインバウンド対応予算を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方創生関連交付金を含む国の補助金の獲得や財源確保のための国への提言等を行う。</li> <li>「観光地再生・活性化ファンド」がインバウンド対応の視点からも最大限活用されるよう、関係機関と連携を図る。</li> </ul>
	● <b>県と市町村の連携・協働</b> 県と市町村の連携・協働の枠組みの中で、門前町などにある多くの空き家物件を富裕層を顧客に持つ海外宿泊業者などを誘致するなど、地域に残る古民家等の歴史的資源を宿泊施設、土産物屋、レストラン等に活用し、新たな周遊ゾーンを創出する取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【参道や門前の賑わいのまちづくり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産の社寺の近隣など独特の雰囲気のある門前、参道において、空き家の活用、既存店舗の刷新などにより、飲食店、地場芸品展示販売施設、地域の文化紹介施設、観光案内所などの立地を促進する。</li> </ul> </li> <li><b>【街道、古道、伝統的街並みを活かした賑わいづくり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特色を活かして景観と調和するように配慮しながら、格調のある店舗、宿泊施設、芸術文化施設、散策路などを誘致・整備する。</li> </ul> </li> <li><b>【周遊ルート上での観光拠点施設の整備】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内有力観光地の周遊ルート上での利便性の高さ、地域ならではの眺望などの地の利を活かした観光集客施設などのサービス施設を誘致する。</li> </ul> </li> <li><b>【絵になる風景と佇まいの創出】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然や文化資源を活かしながら、植栽、花、水、灯り、芸術作品、木のしつらえなどの素材を活用して、訪れる人に深く印象づけられる風景や佇まいを創出する。</li> </ul> </li> </ul>

# 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン(素案)目標値設定

## 〈国の目標値〉

「明日の日本を支える観光ビジョン」  
(観光庁 平成28年3月30日策定)

■ 訪日外国人旅行者数	2020年 <b>4,000万人</b> 2015年の約2倍	2030年 <b>6,000万人</b> 2015年の約3倍
■ 訪日外国人旅行消費額	2020年 <b>8兆円</b> 2015年の2倍超	2030年 <b>15兆円</b> 2015年の4倍超
■ 地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年 <b>7,000万人泊</b> 2015年の3倍超	2030年 <b>1億3,000万人泊</b> 2015年の5倍超

## 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン(素案)における目標値(案)

策定時期: 2019(平成31)年3月  
計画期間: 2037年度

### ■ 外国人観光客数

2016年 **165万人** → 2037年 **660万人**

奈良県の2016年外国人旅行者数(165万人)を **4倍**する。

**国の目標** 訪日外国人旅行者数の実績値は、2015年 1,974万人  
訪日外国人旅行者数の目標値は、2030年 6,000万人  
同じ増加人数で推計すると 2037年 7,879万人  
2037年 7,879万人は、2015年 1,974万人の**約4倍**

### ■ 外国人観光消費額

2016年 **160億円** → 2037年 **2,000億円**

外国人一泊あたり観光消費額を2016年の全国地方圏平均値と想定する。

$$45,666 \div 1.5 = 30,444 \text{円}$$

(地方圏消費単価) (地方圏宿泊率)

$$660 \text{万人} \times 30,444 \text{円} \approx 2,000 \text{億円}$$

### ■ 外国人延べ宿泊客数

2017年 **30万人泊** → 2037年 **660万人泊**

外国人訪問客の本県への平均宿泊日数は、1泊を目標とする。

(参考: 近畿各府県宿泊率(H28) 奈良県:0.19 滋賀県:3.25 京都府:0.70 大阪府:1.06 兵庫県:0.75 和歌山県:1.95)

### ■ 地域別目標値(外国人延べ宿泊者数)

**奈良市以外** 2017年 **6万人泊** → 2037年 **200万人泊**

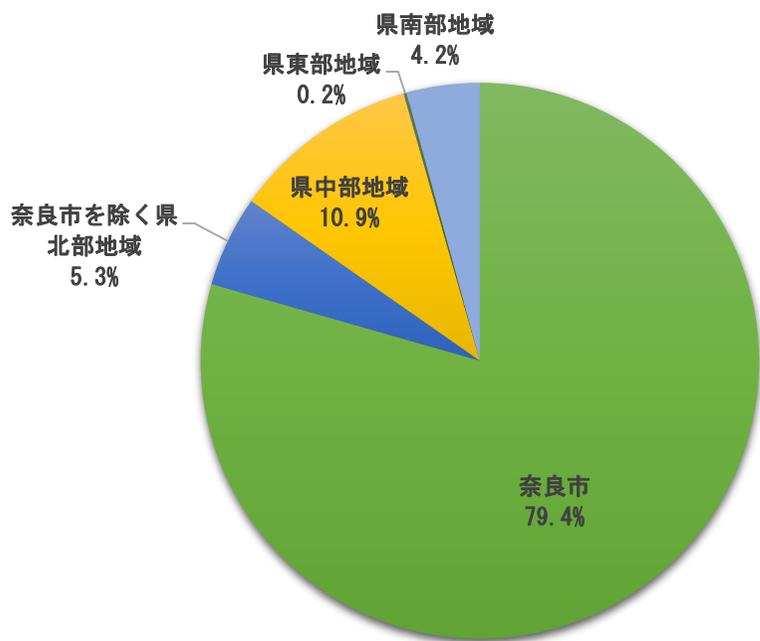
**奈良市** 2017年 **24万人泊** → 2037年 **460万人泊**

奈良市以外の延べ宿泊者数の割合を1割増しの3割に増やす。

以上を最小限の目標値として、今後「奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン」をもとに、意欲ある市町村の取組と連携し、さらなる底上げを目指す。

- ・ エリア別の宿泊客については、奈良市での宿泊が全体の8割近くを占めている。

外国人宿泊者数のエリア別割合(H28)



出典: 奈良県宿泊統計調査・奈良市観光入込客数調査報告

エリア構成市町村及びエリア別外国人宿泊者数

エリア	構成市町村	宿泊者数(人)
奈良市		252,000
奈良市を除く県北部地域	大和郡山市、天理市、生駒市、香芝市、山添村、平群町、三郷町、斑鳩町、王寺町、広陵町	16,768
県中部地域	大和高田市、橿原市、桜井市、御所市、葛城市、高取町、明日香村	34,443
県東部地域	宇陀市、曾爾村、御杖村、東吉野村	558
県南部地域	五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村	13,412
県全域		317,181